新任保育士元気アップ研修

1．新人・中堅・ベテラン　それぞれの視点と課題
2．子どもを「見る」力を養う
3．全体を捉えながら、個を見る意識
4．こどもとのかかわり
5．保護者とのコミュニケーション
6．保育者の連携
　おまけ：書類との向き合い方

Umehana Childcare
Communications

講師　松原美里

合同会社ウメハナチャイルドケアコミュニケーションズ

保育コミュニケーション協会　代表

保育士。北海道網走市生まれ、横浜女子短期大学を卒業後、横浜市の保育園、川崎市の児童養護施設に勤務。認定こども園保育園部施設長を経て、現在は静岡を拠点に全国で活動。 コーチング・心理学・NLP・システム思考等を学び、資格も取得。保護者向けの子育て支援講座、新人・中堅の保育士向けのコミュニケーション研修、管理者向けのマネジメント研修を提供し、「参加者が主役」「笑顔あふれるワーク」が好評を博す。「子どものために大人が輝く背中を見せる」をモットーに、オンラインサロン、園内ファシリテーター・認定講師の育成も行っている。

Youtube　うめちゃんねる　松原美里

Umehana Childcare Communications

＜事前アンケートより＞

Umehana Childcare
Communications

1．新人・中堅・ベテラン
～それぞれの視点と課題～

新　人　の　視　点

- 子どもと向き合う
- 信頼関係を築く
- 指導を身に着ける
- 記録の書き方を身に着ける
- 保護者とのかかわり方を体得していく
- 教わったことをモノにしていく

～日常の中で試行錯誤しながら、身に着けていく～

中　堅　の視点

- 保育に見通しがついてくる
- 「こんなことやってみたい！」アイディアが湧く
- 思い描いた保育を形にすべく、　チャレンジが楽しい
- プライベートに余裕が出てくる。習い事なども充実！
- 理想の保育と現状のギャップに悩むことも・・・

「楽しみながら間を埋めていくことができるか？」

が成長の分かれ目！

～研修の機会などを通じて視野を広げ、保育に彩りを！

ベ　テ　ラ　ン　の視点

- ストックが増え、保育の幅が広がる
- 自分のカラーができる
- 保育に安定感が生まれる
- 子どもとの一体感を楽しめる
- 一年一年を重ねていく充実感を感じる
- 後輩を育てる喜び
- より良い園にしていく

～他園と情報交換をしながら、良い仕組みを現場に流す～

保育士の階段を上る中で、目指す在り方

- **子どもとのかかわり**
  ～育ちに寄り添い、成長を喜び合える関係
- **保護者支援**
  ～子育てのパートナー！
- **チームワーク**
  ～かけがえのない一員として、声を掛け合える
- **失敗は、成長のチャンス！**
  ～学びの時間というギフトとらえる

<ここまでで感じたこと・終了時に目指す状態>

2．子どもを「見る」力を養う

●子どもたちは、一人一人が劇の主役

・子どもが楽しく活動できるような
　準備や配慮（声掛け）を行う

・主役がいい状態で活躍できるための、
　マネージャーの動きは？

●保育者に求められる動きとは

⇒　**プロデューサー・指揮者・コンシェルジュ・黒子etc**

～臨機応変に子どもにとって必要な形になる！

Umehana Childcare
Communications

「ちょっと見ていて」

⇒人間は、様々な情報の中で
自分がアンテナを立てた情報のみを取捨選択して生活している。

「見る」・・・全体を把握する、見守る中で必要とされる行動を取る
「観る」・・・成長・子どもとのかかわりの様子などを観察する
「診る」・・・身体に異常(熱・湿疹・腫れ等)はないか？視診を意識

「気が付く」アンテナを養うには？

保育の専門性を高める視点

一歩引いたところから全体を見る俯瞰の視点が大切。

●観察・振り返り

・子どもの状態はどうか
・何を感じているのか？
・表情から、どんなことを感じていたか？
・保育士はどんな働きかけをしていたか？

●考察・反省

・何が起こっていたのか？
・どんな可能性があったのか？
・どうかかわると良かったのか？

～これらを頭の片隅に置くことで場面の捉え方が変化する～

Q．何が起こっていましたか？

～見て気が付いたこと・感じたこと～

３．全体を捉えながら、個を見る意識

一人の子どもを見るのではなく、全体を見ながら個々に意識を馳せる

【全体を見る：危機管理のため】

●事故・アクシデント

EX：散歩時の見失い～全体を見て、人数確認を！

プール・水遊び時の状況把握

●怪我

起こりやすい場所・機会

～ヒヤリハットに目を通して想定・イメージをする

●保育の中での工夫

対策・配慮について現場間で共有を

～これらを踏まえた上で、個を尊重するかかわりを～

「動ける」とは

―子どもたちの状況から

一人一人は何をしているのか、何が起ころうとしているのか

・・・を「見て」目の前の保育状況を把握・理解し、

一人一人に　どんなかかわりが必要なのか

その状況の中に潜む危険を予測・察知し

自分は今何をする必要があるのかを考えて

必要な判断をして行動すること

Umehana Childcare Communications

＜動けるようになるための道のり＞

①子どもの状況を想定する（今、どんな場面か？）

↓

②自分のあり方（求められていること）を選択する

↓

③体が動く（必要な行動が取れる）

↓

④子どもを促す・声掛けする

↓

⑤寄り添いながら、次の動作につなげていく

年齢・それぞれのペースにあわせたかかわり

0歳児、1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児ならーーー？

～それぞれの発達や個性を知り、こどもの発達段階を見極め
個々に合わせた働きかけをすること

そのためにも、

- **状況への気づき**
- **かかわり方の見極め**
- **行動の選択・決断**

～日々の中で子どもの姿を語り合う中で、視点を育みましょう～

４．こどもとのかかわり

・新入園児との信頼関係の築き方
・子どもを惹き付ける話し方・まとめる力を身につけたい
・子どもの心に寄り添う、とは･･･？どんな場面で？
・感情的になってしまうことがあり、コントロールの仕方を学びたい
・クラス全体をまとめる際の声かけのポイントが知りたいです。
・叱ったあとのフォローが難しい。
・具体的な環境づくりや遊びの方法、子どもとの関わり方を知りたい。
　こどもが走り回り、EX:他の子も巻き込んで走り出してしまう。
・子どもがやめてほしい行動をとったときのかかわり方
　先輩保育士が声をかけるとやめるが、
　私が同じ声の掛け方をしても笑っている時もある。
・子ども同士の気持ちがぶつかり合ったときの保育者の関わり方

<リンゴコロコロ>

りんごころころ　**りんご**ころころ

みかんかんかん　**みかん**かんかん

ピーマンピーピー　**ピーマン**ピーピー

かぼちゃぼちゃぼちゃ**かぼちゃ**ぼちゃぼちゃ

嫌われる！？どうしたら慕われる？

- **言わなければならない・・・**

  言うと、プイッとされてしまう

  ～相手の様子を子どもも試している

- **注意されることばかりを、子どもがする**

  ～興味を引きたい？

  ～子どもの本来の姿

受け入れ、寄り添いながら

一人一人との信頼関係を！

信頼関係を築く上での、心の矢印

「これを言ったら、嫌われるかな・・・。」
～最初は、誰もが恐れてしまう　子どもとの一線

子どもはこの線を越える“覚悟”を見ている

＜心の矢印＞

自分　？
子ども　？

「自分のために言ってくれている」と感じられると、
子どもはその人を慕っていく

子どもへの「ねがい」から、かかわり方を考える

一人一人を尊重しながら、日常を共に味わう
どう振る舞ったらいい？
誰に聞けばいい？

～保育士は子どもとの毎日の中で、
瞬間ごとに判断・行動している～

保育者として

「子どものために」というところに立ち、

「ねがい」からかかわっていく

Q.どんな大人になってほしいですか？

どんな人生を送って欲しいですか？

～保育所保育指針に載っている子どもの姿を参考に～

＜EX＞

感じる心に寄り添う
気付きを大切にする
意欲を見守る
自分で考える力を育む
相談しながら、知恵を出す

・・・**引き出し、導くためのかかわりをしていく**

子どもへの声掛け

・嬉しいこと・楽しいこと・
　世界観を分かち合う中で信頼関係を築く

・本人の意思を尊重しながら、
ポジティブな声掛けを心掛ける
「～すると○○できるから、～しよう」

・ルールと関わる人の気持ちをリンクさせて
「○○をすると～の人が嫌な気持になるよ。」
「○○ができると～の人は嬉しい気持ちになるよ。」
「どうしたらいいかな？」

＜考えてみましょう！＞

遊んでいるときお友達のものを取ってしまう子に、
どう声を掛ける？

＜感想＞

・　**“その時”が伝えるチャンス！**

子どもは今を生きている。
　タイミングを逸しない。

ＥＸ：歯磨きの仕上げをしている時に、
布団の上を走り回っている子がいる場合

・**子どもに「響く」言葉で**

年齢・成長・個性によって伝え方を変える

0歳の子がおもちゃを取られそうになり、噛みつこうとした場合
4歳の子がものの取り合いになり、噛みつこうとした場合
　　～どう変えて行けばいい？

Umehana Childcare
Communications

・**「できたらいいことがある」という実感を**
「できている子」に意識的に焦点を当て、
意味を伝えていく
ＥＸ：朝の会を始める時、ふざけて話を聞こうとしない

・**プラスの意図と、マイナスの結果**
一見、マイナスに見える行動にも、
＋の目的があることがある。
ＥＸ：ボールを取ろうと、道路に飛び出してしまった

・誰がやる？
⇒　**気が付いた人**が、声を掛けましょう！

・大切なのは、**一人一人との信頼関係**を重ねていくこと
～子どもとの瞬間瞬間を、大切に！

５．保護者とのコミュニケーション

子どもの様子を伝える際にうまく説明できずに

伝わっているか不安になる。

気になる姿がある子について、どのように話をしたら良いか悩む。

子どもの様子をできるだけ保護者に伝えるよう頑張っているがあまりできていない。

家庭との関わりを頑張っている。保護者に聞いた相談事などを他の先生に伝えるなどして様子や関わり方を相談する。

新任保育者から保護者への思い

＜使命感＞
- きちんと対応ができるようになりたい
- プロとしてあらねば・・・！
  ～気負いから、ぎこちなくなってしまう

＜不安＞
- 信頼してもらえるだろうか？
- 親になったことがないのに…大丈夫？
- 試されているのではないか？
- 緊張してしまう
- 先入観によって身構えてしまう

保護者から見た、新任保育者

・保育のプロとして、一目置かれている存在
・子どもはわからないことだらけなので、教えてほしい
・子どもの大好きな先生、
　子どものエピソードや育ちを分かち合える存在
・ベテランの保護者からは…「育ててあげたい」存在。
　　大きな目で見守ってくれている

子どもにとっての保護者という存在

親は子どもにとっての“存在基盤”

＜EX＞

児童養護の例
保育園の例

保護者と保育者の間に信頼関係があると
子どもは安心する

＜保護者対応について、感じていること＞

Umehana Childcare
Communications

保護者の背景

- 核家族化し、周囲に相談できる存在がいない
- ＨＥＬＰを出すことに慣れていない
- コミュニケーションが不器用な方も
- 忙しくて心に余裕がない
- 親という立場・役割を学んでいる途中
- 子どもによって広がった関係性に戸惑い…？

＜あなたがもし・・・こんな状況だったら？＞

保護者は一緒に子育てをするパートナー

・子どもが輝く“ゴールデンタイム”を保護者と共有する

-子どもの体調の変化・気が付いたこと

-印象に残った場面とその理由・会話・ドラマなど

-成長が感じられた場面

・保育者の常識は、プロの常識。

保護者にはわからないことがある。

～保育者の当たり前を言語化して伝え、

同じ景色を見つめるパートナーに

EX:トイレットトレーニングを進めてほしいという保護者

Umehana Childcare Communications

保護者が受け取りやすい伝え方

・自分が知っていて、相手が知らないことがあるかもしれない。
「前提の共有」を心掛ける

・保護者への敬意を伝える表現で
～プロとしての一線を意識する

・子どもの様子がイメージできるように
「一枚の絵を見るように」言葉を補いながら

・エピソードは
その時の感情を分かち合いながら、ありありと

相手が受け取りやすい伝え方

＜黄金ルール＞

（　相手にとって意味があること　）
＋
（　保育の意図・背景・こちらの思い　）
＋
おうかがい

<Let's　try！>

1歳の子どもの体温が37.8度のため、保護者に迎えに来てほしい
～どう伝えましょうか？

Umehana Childcare
Communications

体感してみましょう！

あなたはワーキングママです。
なかなか保育園に子どもが入ることができず、半年間　育休を伸ばしてもらい先月、ようやく子どもが保育園に入園することができました。
職場復帰したものの子どもの体調が崩れやすく、先月も何度も早退や欠席をすることになり職場の雰囲気が痛いのを感じています。
そんな中、保育園からの電話が鳴りました・・・

＜ストレートに言われたケース＞

＜相手が受け取りやすい伝え方のケース　感じたこと＞

～大切なのは相手の背景に寄り添いながら一緒に歩みを重ねていくこと～

Umehana Childcare Communications

６．園内の連携コミュニケーション

・複数担任で先生が多いことから情報共有が上手くできていない
・共通のお話・仕事以外のお話ができるようになりたい
・フリーの先生にお願いするのが苦手
・先輩との上手くいく付き合い方、頼り方があれば教えてほしいです。
・職員室での陰口･悪口にどんな顔をしたらいいのか？
・先輩保育士との円滑なコミュニケーションの取り方
・会議や園内研修の場で自分の考えを発信できるようになりたい。
・園での男性保育士はどうあると良いのか聞きたい
・自己判断ではなく小さな事も質問することの大切さを感じている

人間関係・連携が良くなる
コミュニケーション

保育はチームワークで成り立っている
子ども・保護者・先輩・同期・・・
スムーズに保育が回るためのコミュニケーションとは？

＜複数担任の保育で、子どもの成長を分かち合うために＞

・日々の連絡・気づき・エピソードを伝え合う・
　声を掛け合う・確認をするコミュニケーション
・同じ方向を向き、共に成長を考えること
・クラス内で保育に関する価値観の共有
・背中を預け合える信頼関係

＜職場のコミュニケーションで感じていること＞

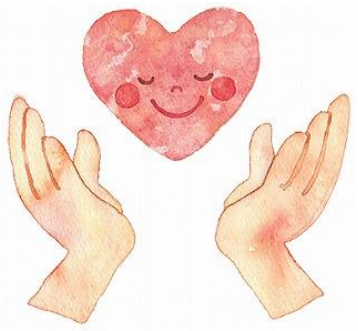
信頼関係を築く在り方

●まずは、自分から心を開くこと！　＝　自己開示

・子どもとのかかわりで困っている・悩んでいること
・一緒に進めている仕事の進行具合
・嬉しかった子どものエピソード
・学ばせてもらいたいこと　　など

●相手を受け入れること　＝　他者理解につながる

・子ども・仕事への思い
・個性・キャラクター
・大切にしていること



＜架け橋を築くコミュニケーション＞

・保育チームの中にいる、自分
・日々の中で信頼関係を重ねていくためのコツとは・・・？

●内的会話：自分の内側で起こる会話

「（自分は）どう思われているんだろう？」
「（自分は）どうしたらいいのだろう？」

・いい保育士になりたい！という焦りがある
・他のことが頭の中にちらついている状態
・以前あったことが気になり、先入観になっている状態

↓

目の前の人は、置いてけぼりの状態。

＊相手の心の中では、何が起こっているのか？

●外的会話：相手と行われる会話

・日常のやり取りなど
言葉で相手と交わされる会話のこと

＊　矢印が相手の方に向いている状態　＊

～相手の心の中の本音は？

日常会話のやりとりから相手側に寄り添い、
少しだけ踏み込むことで
言葉にならない本音が見えてくる

保育のやりがいを感じる毎日のために

・人はそれぞれ、
常識・育ってきた環境・考え方がちがう

・共通するものは・・・（　**こども**　）への思い

・お互いの**価値観を尊重すること**が連携のコツ！

＜保育の仕事を選んだ理由・喜びを感じる瞬間は？＞

＜ワーク＞

A　：　話し手

「保育の仕事を選んだ理由・喜びを感じる時」
～について、話してみましょう。

B　：　聞き手

1．自分に意識を向けながら、聞く（内的会話）
2．相手に意識を向けて聞く（外的会話）
3．言葉の奥にある感情に寄り添う
「～と感じていらっしゃるんですね」

＜感じたこと・メモ＞

安心感から心の通い合うチームワークを

ペーシングとは

無意識に行っている行動を相手に合わせていくことで、
相手は自分に近いと感じて安心する。
信頼関係によって心を開き
相手の存在・言葉を受け入れやすくなる

・あいづち・うなずき

（「あなたの話を聞いています」「理解してます」の意）

・笑顔

（あなたの存在を受け入れていますよ、のサイン）

・相手のペースを受け入れ、合わせる

（呼吸・言葉・場・仕草・声の大きさ／高さ・視線・ペース）

感情労働の毎日で、大切にしたいこと

- **上手くいくときもあれば、行かない時もある**
  そんな時は無理をせず、気持ちの波を味わってみる

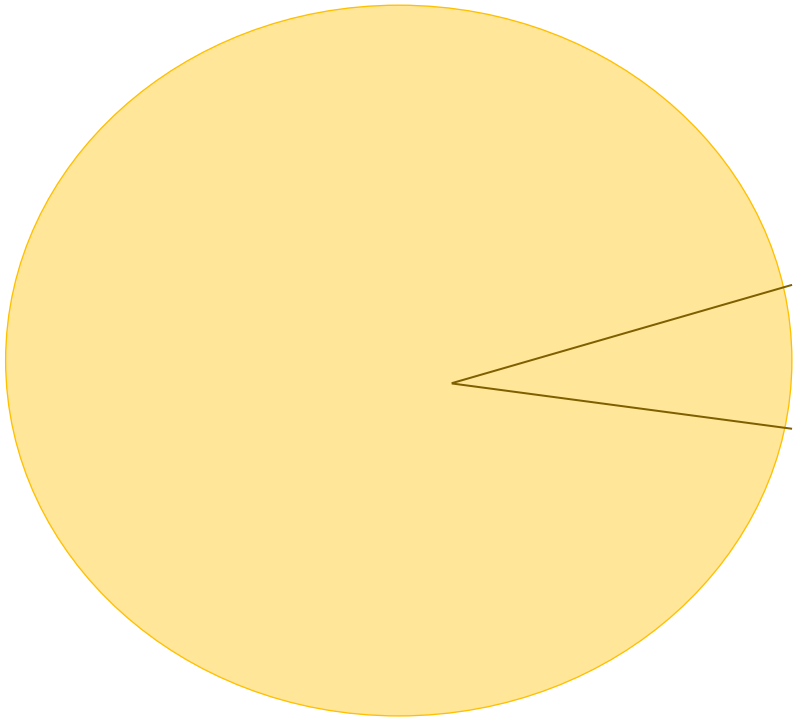
- **喜怒哀楽…すべて、大切な感情**
  ～アンテナを立て、さまざまな感情にOKを出す。

- **全てを「自分のせい」と捉えない**
  ～課題はあるが、それぞれの中で起こっていること。

- **裏表（うらおもて）、無し！**
  陰口の悪循環には加わらず、“リクエスト”として捉える

- **自分自身が良い状態でいられるよう、自愛(ケア）を！**

・ポジティブな話題を意識的に！



育成期間中のコミュニケーション

・**目的は「一人で動ける」ようになること**

～保育は早番～遅番etc、一人で様々な業務を分担する。

・**一度言われたことはメモを取り、二度目は自分から動く**

～子どもの命をあずかる中での「指導」は“命がけ”！

・**叱ってもらえるうちが、花**

～注意・叱るのにも時間とエネルギーがいる。感謝で受け取る。

・**指導は「自分の成長」の糧**

～人はいつも成長途中。耳が痛いことほど、成長できる。

＜分からない時は、質問を＞

- いま、どう動いたらいいのか？
- こういう時は、どうしたらよかったのか？
- 先輩はなぜ、そうしたのか？

～などなど、疑問が湧いてくる場合

「こういう場面では、
どう判断して動けばよかったのでしょう？」

～と、質問・確認を！

同じ場面を見ていても、
視点によって見えてくることが変わる
先輩の視点を知ることで保育の捉え方が分かり、
視野が広がることで視点の引き出しが増え、動きやすくなる

おまけ：書類との向き合い方

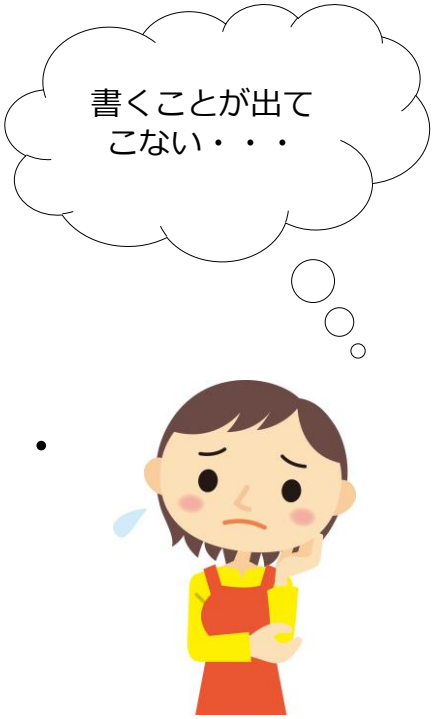
～捉え方を変えると、心が楽になる～

子どもとのかかわりは好き！
けれども、書類は苦手・・・。

子どもとかかわる時間と同様に大切な、
書類＝子どもに関する記録を書く時間

はじめは要領を掴むことができず、
先輩からの直しを受けて　もがくことも・・・

どう向き合っていけばいい？！



そもそも、何のため？

書くことが目的ではない

～子どもの「今」を見ながら、に
友達との関係性・
いくつもの視点で場面を捉えていく

どうかかわればいいのか？が見えてくる
子どもに立ち現れる姿が変わってくる

仮説・検証・今後の目標設定がしやすくなる

保育の専門性を高める記録へ

- 「成長の中で、この子はいま
  どんな段階にいるのか？」～に思いを馳せる

- **人とのかかわり**の中で、
  どんな力を獲得していこうとしているのか？
  ～について、読み取りながら保育を行う

- **子ども同士の関係性**で、何が起こっているのか？
  ～心の中の葛藤を想像しながら、
  保育者として必要なかかわりをする

- **個人・子ども同士・クラスの課題**はなにか？
  近い目線・**客観的**な視点・**関係性**の視点・
  集団としての視点･･･保育者の振り返りから、今後に役立てる

はじめに携わる、書類の種類

・連絡ノート
・年間指導計画
・月案・反省
・週案・反省
・日案・反省
・児童票（個人記録）
・振り返り

それぞれの特性を知り、モードを変える

ポイントを見極める

必要な言葉遣いを使い分ける

それぞれの種類と目的

●連絡帳

【目的】

家庭の様子を園と共有し、
保護者に園での子どもの様子を伝える
★子どものゴールデンタイムのシェア！

【書く内容】

遊び・お友達とのやり取り・
生活の場面での様子・成長・保護者が気になっていること
★ 微笑ましいエピソード・ハプニングなど

【書き言葉】

お友達ではないので、ですます調で
NG:絵文字　OK:伝えたい内容を表現

● 年間指導計画

【目的】
一年間の子どもたちの成長するドラマを
見通しを立ててプロデュースする視点

【書く内容】
一年間の中の時期を４期（３か月ごと）に分けて、
養護・生命の維持・情緒の安定
教育・健康　・人間関係・環境・言語・表現
食育・保育士の関わり・環境構成・
健康・安全・家庭との連携　など

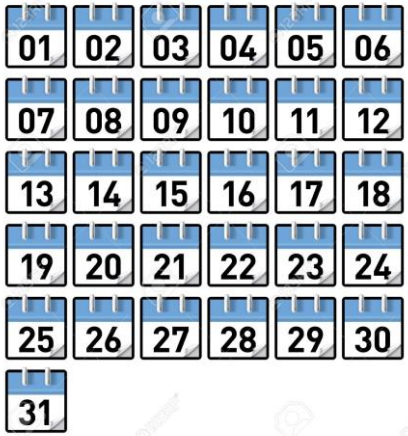
【書き言葉】
　いい切り型　「～する」「～となる」など

● 月案

【目的】
年間で立てた計画に沿って、その月を
どう過ごしていくと豊かな成長につながるのかを
あらかじめイメージし、活動として描く

【書く内容】
子どもたちが月のねらい（目標）・狙いを体験できるよ
どのような活動を取り入れていくのか・
目標とする子どもの成長イメージと、
そのための働きかけについて記載

【書き言葉】
目標とするイメージが明確となるよう、いい切り型
「～の時間を過ごす」「～となる」　　など



●週案

【目的】

月案で立てた保育計画を
月の中の各週のドラマに落とし込み、
一週間の活動の中での配慮を明確にする

【書く内容】

１週間の中で、子どもが園で過ごす成長ドラマが
有意義なものとなるよう各日の設定を考える。
必要な準備品や配慮をイメージし、落とし込む

【書き言葉】

活動予定の内容・配慮・準備品を書き出す
「○○公園へ散歩」「季節の花を楽しむ」
「○○の環境を用意する」

など

● 日案

【目的】
子どもの一日の活動が充実した時間となるため、
週案から落とし込んだ一日を記す。
担任自身のイメージが明確になり、
フォローで入った職員も流れが共有できて動きやすくなる

【書く内容】
その日の天気・出欠席・特記事項
時系列の一日の予定　そのために準備するもの

【書き言葉】
いい切り型　内容を書き置いていく。
「排泄」「朝の会」「○○集会」「○○をする」など

● 児童票（個人記録）

【目的】
こども一人一人の成長・発達の様子を
客観的に記録することで、今の課題が明確になり、
今後の方針が定まってくる
後日振り返った時に発達と保育の連続性が見えてくる

【書く内容】
本人の個性・得意とすること・年齢ごとに表れてくる
成長発達の課題に対して本人がどう向き合っているのか
その様子を客観的に捉えて、記す

【書き方】
客観的に　「～の様子が見られる」「～が課題である」
　　「～を促す」「～の配慮が必要である」など

●反省

NG！
「私のせいで・・・」

個人的な反省
ではありません

【目的】

出来事・かかわりを書き出す中で
そこで起こっていたことを客観的に振り返り、
気づいたことを今後に役立てていく。

【書く内容】

保育活動について、事前に書いた想定と
実際の活動の中で起こった出来事を振り返る。
うまくいっていることに気が付き、
さらに課題となること・今後の改善提案を記す。

【書き方】

自分の個人的な反省ではなく、子ども集団を
客観的に振り返り、見えてきたことを書く
「～の様子が見られた」「今後も～を取り入れていく
「～を心がけていく」「○○の配慮が必要。」など

Umehana Childcare
Communications

まとめ、振り返り

1．新人・中堅・ベテラン　それぞれの視点と課題
2．子どもを「見る」力を養う
3．全体を捉えながら、個を見る意識
4．こどもとのかかわり
5．保護者とのコミュニケーション
6．保育者の連携
　おまけ：書類との向き合い方

＜　明日への一歩　＞

Umehana Childcare
Communications